

活動の場所

京都市 中京区 企業敷地内



活動目的

地域在来種を中心とした生物多様性の保全・回復に資する森づくり活動

活動内容

生物多様性の保全・育成や地域在来種の自然植生などをコンセプトに当社の本社三条工場（京都市中京区）内にある緑地帯、約8000㎡を「島津の森」と命名し整備しています。「島津の森」には約100種・1100本の草木を植栽しています。

①希少植物の育成

京都の伝統文化を支えてきたいいくつかの希少植物を保護すると共に、増殖を試みているところで、文化の継承にも寄与してゆきたいと考えています。

例えば、地域在来種である「フタバアオイ」は京都の三大祭りである葵祭りで装飾に使われています。「チマキザサ」は祇園祭の厄除け粽（ちまき）に利用されています。「フジバカマ」も源氏物語に登場するなど、京都の伝統文化に密接に関連があります。

これらの取り組みは「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」の認定も受け、また「島津の森」で増殖したフタバアオイは、毎年5月に上賀茂神社に株を奉納し、葵祭に活用いただけるようにしています。

②京都市の生態系ネットワークへの寄与

2015年に、生物多様性の保全・回復への取り組みを客観的に評価して認証する制度である、公益財団法人日本生態系協会による「ハビタット評価認証（JHEP 認証）」において、西日本の製造企業で初めて最高ランク AAA 評価を取得しました。調査により、生息が期待できる野生生物をいくつか確認しており、都市化した京都市内の緑地として生物の休息所になるなど生物のネットワークとして寄与しています。

③科学的データにもとづいた土壌管理

植物の生育に欠かせない「土」については、科学的データにもとづく土壌管理を行っています。生物的性質を分析し「土づくり」が見える化する手法である『土壌肥沃度指標：SOFIX（Soil Fertile Index）』を開発された立命館大学生命科学部 生物工学科の久保幹先生にご協力いただき、「島津の森」の土を定期的に分析しデータに基づいた施肥を行っています。ちなみに、土壌成分の分析には当社製品であるTOC計（全有機体炭素計：TOC-V CPH）や固体試料燃焼装置（SSM-5000A）も活用いただいています。

PRしたいポイント

- 地域在来種を中心とした生物多様性保全と文化継承への貢献
- 生態系ネットワークを意識した、生物の生息場所や環境の提供
- 産学連携による分析技術を活用した土壌管理

活動効果、今後の展開 等

希少種の育成や、京都市の生態系ネットワーク構築への寄与、科学的データにもとづいた土壌管理の活動を実施し着実に成果が出ていることから、今後も希少種の保護や回復を着実に実施すると共に、サプライヤー等への地域性種苗の提供など、生物多様性の保護に資する活動を社外にも波及させるべく活動を継続して行く。